

水稻・今後の育苗管理について

平成25年4月

J A全農ちば営農販売企画部

3月中旬まで暖かい日が続き、例年にないスピードで「播種・育苗作業」が進んでいる状況です。長期予報では関東甲信越地方の向こう1ヶ月の気温は高いとされており、管理次第では高温障害や細菌性病害、苗立枯病の発生等が懸念されます。

生産者に対して、健苗育成にむけた育苗管理の徹底をお願い致します。

記

1. 今後の育苗管理について

- (1) 気温が高いため、浸種日数が例年に比べて短い状況です。水温が高いと細菌性病害の発生が助長されるので、水の交換を1日1回行うようにして下さい。
- (2) 浸種日数に注意し、芽出しは「ハト胸1mm」とどめて下さい。伸ばしすぎは危険です。
- (3) 育苗中の温度は出芽時には30℃以上、緑化期には25℃以上にならないように換気に努め、高温障害を避けるようにして下さい。硬化期は、極力外気に馴らすように管理して下さい。
- (4) 播種時の床土への灌水量は1箱当たり1割程度とし、種籾の持ち上がりに注意して下さい。育苗中の灌水は1日1回を基本とし、多湿条件を作らないようにして下さい。
- (5) ビニール等を新しく張り替えたハウスや被覆資材を変更した場合は、温度管理に注意して下さい。

2. 苗立枯病の種類と病徴及び発生条件

病原菌	病徴	発生条件
リゾープス菌	箱の表面全体に白～灰色のカビが広がる。	出芽時の高温（35℃以上）・多湿
フザリウム菌	籾の周りに白～ピンク色のカビが生じる。	播種後の低温及び乾燥と過湿の繰り返し
トリコデルマ菌	地際部に白カビが生じ、その後青緑色カビに変わる。	出芽時の高温（30℃前後）
リゾクトニア菌	クモの巣状のカビや白色菌核ができる。	高温・多湿
ピシウム菌	坪枯症状をおこす。萎凋し下葉から褐変枯死する。	緑化期以降の低温

3. 苗立枯病の防除薬剤

薬 剤 名	倍率	リゾープス菌	フザリウム菌	トリコデルマ菌	リゾクトニア菌	ピシウム菌
ダコレート水和剤	500	●	●	●		
ダコニール 1000	500	●				
ベンレート水和剤	1000			●		
バリダシン液剤	500				●	
タチガレエース液剤	500		●			●

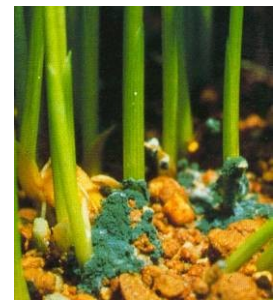
※育苗箱に発生したカビに対応できる薬剤を選択、散布しましょう。



リゾープス菌



フザリウム菌



トリコデルマ菌

4. ムレ苗対策

「ムレ苗」はピシウム菌の関与が大きく、急激な気象変化や土壌水分などの影響により発生します。低温によって根の活力が低下して茎葉への養分供給量が減少し、水分の蒸散と吸収とのバランスが崩れ「ムレ苗」が発生します。

症状としては、①坪状に黒ずんで葉がよれる。②症状が進むと黄化し枯死する。③地際部は腐らず緑色を保つなど一般の「苗立枯病」とは異なります。

(1) 予防対策

- ①日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう温度管理に注意する。
- ②天候に合わせた灌水を心がけ、かけ過ぎに注意する。
- ③緑化初期（出芽後2～5日）にフジワン粒剤を箱当り25～50g均一に散布する。

(2) 治療対策

- ①早めの換気に努め、発根を助けるため乾燥気味の管理を行う。
- ②タチガレエース液剤500～1000倍を散布する。
- ③寒冷紗などで日よけをし、夜は十分保温し根の回復を促す。

以 上